

その手があったか! 賃貸住宅より稼げる土地活用

賃貸不動産オーナー向け経営情報誌

2019年4月1日発行

家主と地主®

2019

4
月号

Vol.103

- ◎市場規模が8年間で倍増したトランクルーム
- ◎月極から時間貸し駐車場に変更し収入が2割アップ
- ◎保育園建設費の4分の3を国からの助成で確保
- ◎太陽光発電は賃貸入居者獲得が厳しいが地価が割安な地方が狙い目

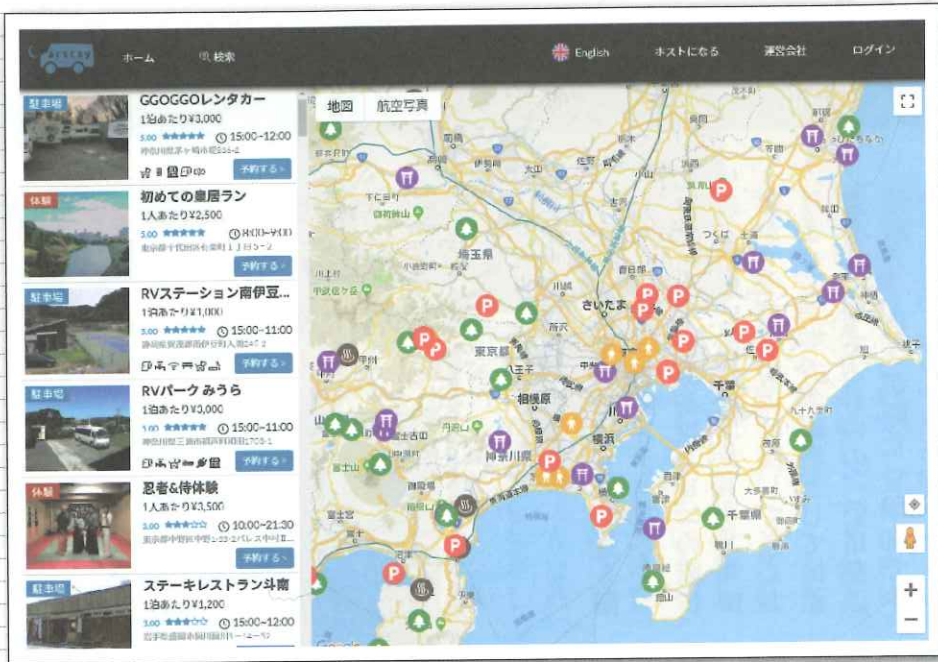
その手があったか! 賃貸住宅より稼げる 土地活用

キャッシュフローを圧迫!?

消費増税が賃貸経営に与える影響

地元を知り尽くしているからこそ高稼働
岩手県で活躍する家主座談会

車中泊する場所をマッチングするサイト登場



地図から車中泊できる場所や体験できるスポットが探せる「Carstay」のサイト

訪

日外国人が増加している中、車中泊の市場も拡大しつつある。そんな中、車中泊・テント

泊をして車旅を楽しむゲストと駐車場や文化体験を提供したいホストをつなぐサイトがオープンした。その名も「Carstay（カーステイ）」だ。

1月30日に開設した同サイトは、車中泊できるステーションとして80カ所、車旅のおすすめスポットとして340カ所を登録している（2月5日現在）。車中泊できるステーションには、レストランや旅館などの駐車場などがあり、30都道府県をカバーしている。同サイトでは駐車場や空き地を貸したいホストを募集している。前述した店舗や施設のほか、道の駅やキャンプ場、一般駐車場や貸別荘なども対象になる。車1台分のスペースさえあれば、すぐに導入可能。ホストのメリットとしては、空いているときだけ、駐車場・空き地を収益化できたり、店舗や施設であれば登録するだけで施設の集客へとつながる。WEBのPRや予約、決済はすべて無料だ。

一般駐車場の場合、平均価格は1台あたり1000円。登録条件としては、24時間使用可能なトイレが500m以内にあること、普通車以上のサイズの駐車が可能であることだ。その他、キャンピングカーが駐車可能である場合はプラス500円とされている。

成約時に販売手数料として40%かかるため、収入として60%支払われる。初期導入費用は無料だ。カーステイが三井住友海上と共同開発した「車中泊保険」が自動付帯されるため、駐車場の破損や、ゲスト間のトラブル、夜間の騒音等の問題が発生した場合、最大1億円まで補償されるという。「(二社)日本オートキャンプ協会によると、オートキャンプ人口が2017年で840万人。年々増加しており、ニーズも広がりそうです」と運営するカーステイ（東京都新宿区）の宮下晃樹社長は話す。

キャンピングカーの保有台数は2018年10万6000台ほどあり、10年前の2倍になっているという。今後新しいスペース活用として注目できそうだ。